

事業の実績	<p>子ども家庭福祉学科3年生7名が本事業の中心となり活動を重ねた。また、必要に応じて子ども家庭福祉学科学生有志を募り活動を展開してきた。以下、活動実績を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10月13日(土) 10:00-15:00 子どもの居場所づくり活動「ハロウィンパーティー」 11月24日(土) 13:00-16:00 子どもの居場所づくり活動「ミニ運動会」 12月22日(土) 13:30-16:00 子どもの居場所づくり活動「クリスマス会」 1月26日(土)・27日(日) 福岡県太宰府市 筑紫女学園大学へ子ども食堂関連活動視察・研修会 2月23日(土) 10:30-13:30 子どもの居場所づくり活動「自由遊び」 3月23日(土) 10:30-13:30 子どもの居場所づくり活動「レクリエーション」 1月～3月 「子ども食堂」の開設に必要な「食品衛生責任者」資格取得のための講習会受講
具体的な成果	<p>近年、「貧困」が社会的にクローズアップされ、子どもを取り巻く貧困についても、保育が抱える現代的課題の一つになりつつある。子どもを取り巻く家庭が、経済的充足を果たすために忙しいと、その子どもは保護者から愛される経験が減り、遊んでもらう機会や本を読んでもらう機会等が減る。これらの機会の減少は、子どもの心理的寂しさを増大させるととどまらず、遊ぶ中で身体を動かし身体的発達を促す機会の喪失や本を通して出会う文化の減少など、子どもたちにとっては、生涯にわたる大きな損失につながると考えられる。ひいては、社会全体の損失にもつながる。そこで、本事業では、社会福祉学部子ども家庭福祉学科の学生が、その特性（特性とは、子どもと遊びをとおして関わる中で、子ども自身やその子どもを取り巻く家庭の問題に気づき、その問題や課題を解決に導いていける能力である。）を生かし、地域の課題解決に挑戦する中で、地域文化の継承と学生自身の保育者としての実践力の向上ならびにキャリア形成につなげていくことを目的として活動を行ってきた。具体的には、事業の実績に示すところであるが、今年度は、地域の子どものために、本学科学生が遊びを提供するところから始め、学生主体による子どもの居場所づくり活動の運営に関するノウハウ取得と本プロジェクトの広報を近隣の小学校に広げる活動を行った。また、調理室が完成する2019年度には、活動の幅を、遊びだけではなく、学生が無理なく運営できる範囲の「子ども食堂」の開設につなげていきたいと考えていたため、その開設に必要な「食品衛生責任者」の資格取得も進めてきた。</p> <p>これらの活動の成果として、近隣小学校への本プロジェクト「子どもの居場所づくり活動」についての広報は十分できたと考えられる。原則、月末土曜日の活動日に合わせ、企画会議を複数回開催し、本活動の趣旨に沿った企画を立て準備を進めることができた。併せて、広報用のチラシを作成し、毎回1000部程度のチラシを近隣の大江小学校並びに託麻原小学校のご協力を得て小学生に配布できた。よって、活動当日には50名（保護者を含む）近い参加者がある月も複数回あり、活動を通じて子どもの居場所づくり活動の運営に関するノウハウ取得や学生自身の保育者としての実践力の向上並びにキャリア形成に十分つなげていくことができた。また、「子ども食堂」の開設に必要な「食品衛生責任者」の資格取得も4人取得できているので、2019年春以降、調理室の完成を待って活動の幅を広げることができる展開になっている。運営に必要な予備知識等も筑紫女学園大学にて視察を行い情報の蓄積ができた。GP終了後も地域文化の継承と学生の保育実践力向上の一助のために、本「子どもの居場所づくり活動」を継続していきたいと考える。</p>